

町史「通史編」紹介 現代新しい田園都市の創造

今回は、「通史編」のうち、「現代編」の内容について紹介します。「現代編」は、次の章、節から構成しています。(項は省略)

- 第一章 民主改革と経済復興
- 第一節 敗戦と村政の転換
- 第二節 経済の混乱から復興へ
- 第三節 農地改革と農業基盤の整備
- 第四節 教育改革と公民館の発足
- 第二章 高度経済成長下の黒崎
- 第一節 村政の進展と社会福祉の充実
- 第二節 地域生活の変化と災害の発生
- 第三節 商工業の進展と農業の動向
- 第四節 教育の進展とスポーツ・文化
- 第三章 黒崎町の誕生と発展
- 第一節 町制施行と町政の発足
- 第二節 町勢の拡大と町政の進展
- 第三節 交通変革と産業の動向
- 第四節 地域の変貌と教育・文化

〔終章〕新しい都市創造への挑戦
―新潟市合併へのみち―

「現代編」は、昭和二〇年(二九四五)八月一日の終戦以降、昭和後期、平成期の今日までの期間を対象としています。終章を設け、新潟市との合併に至る経過について述べることにしました。

黒崎の現代は、戦後の民主改革によって村政が大きく転換します。特に、農地改革は、これまでの地主層と多くの小作農に

よって構成されていた状況を変革し、一般の自作農を中心とする新しい農村社会を生み出した。六・三制教育がスタートし、黒崎中学校が創立されました。昭和二四年、山田地区が野木村(現新潟市)から分かれ、黒崎村と合併し、その後の都市化の主要な舞台となりました。

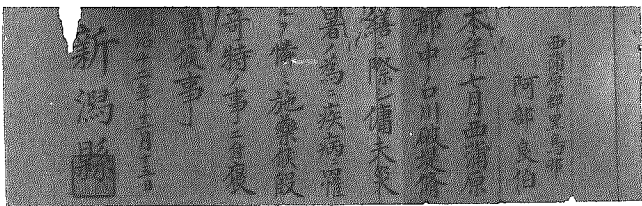
経済は、戦後の混乱から抜け出し、復興に向かい、昭和三〇年代後半以降の高度成長下に大きく発展します。農業は耕地整理によって「農業革新」といわれる新しい姿に変わっていき、機械化によって「農業革新」といわれる新しい姿に変わっていき、道ぞいの企業進出を促がし、町には、「新幹線」と「自動車道」が貫通します。「流通革命」は新しい型の商店を生み出し、大野の商店街や市(いち)にも大きな影響をおよぼし、商工会の新たな活動をよびおこしました。

現代における黒崎の人びとのエネルギーは、新しい都市の創出に注がれました。その創出は、昭和四八年(一九七三)二月一日の町制施行に始まり、当面する新潟市合併へのみちへとつながっていきます。この現代編は、このような農村と市街地を一体化し、新たな田園都市の創造へと向かう人びとのダイナミックな努力と行動を描き出そうとしました。

なお、五月に紹介しました「別編」には、主として現代にかかわる諸統計、主要な団体や官庁等の沿革等を収録しました。皆様のお役に立つ貴重な資料として、活用くださることを期待しております。

間もなく配布される「通史編」、別巻「自由民権編」の頒布案内のちらしをこらんだだき、多くの皆様から購入の申込みをいただきますようお願いいたします。

一枚の写真



この写真は、黒鳥の出身で、黒崎村の医療活動において大きな足跡をのこされた阿部家(現当主阿部紀代二氏)に伝存されていた資料の一部です。写真は、阿部良伯氏に対して

出された褒状です。明治一二年(二八七九)七月には、「信濃川筋寺地、柳作、鳥原、中ノ口川筋金巻破堤」による大水害のあった年です。阿部良伯氏(文政一二年―八二九)―明治四二年(一九〇九)は、この水害の復旧工事に従事した人びとが猛暑のため病気になったのをあわれんで治療にあたりました。その奉仕活動に対して新潟県が表彰したということでしょう。

この良伯氏の医療の心は、その子の良齋氏(安政四年―一八五七)―大正一〇年(一九二二)にも受けつがれました。明治二七年七月の大水害「横田切れ」の時です。良齋氏は、潮(おほ)れた人や避難患者の救護をたのまれると自分の家の水災をもちえりみず数日間、治療活動にあたります。

良伯氏、良齋氏親子の行動は、今でいうボランティア活動です。「医は仁術なり」といいます。「横田切れくどき」には、水害地の医者が貧しい農民の医療にあまり行きたがらなかったことが歌われています。しかし、わが黒崎には、「医は仁」という道を実践した医師が存在したことを誇りに思います。

(文責 五百川 清)

がんばっています

生涯学習

人とふれ合う大切さ

手話サークル「きみの手」笠原 文江

数年前からテレビドラマ等で、手話が広く紹介され昔のように手話で話している人を見て、いったい何をしているのだろうと首をかしげる人は殆どいなくなりましたが、まだまだ手話を、ジェスチャーの様なものと誤っている人は少なくありません。

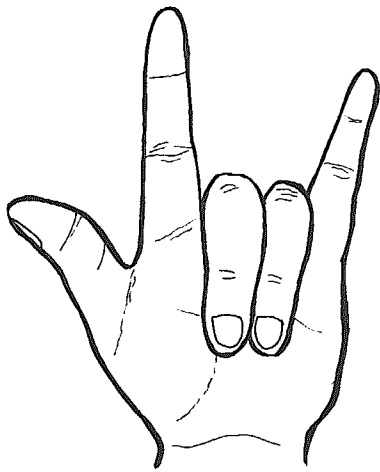
ジェスチャーの様に、物の形や動きを、そのまま模写、描写した表現も数多くありますが、手話はある事柄の意味内容を表情や動作、手の動き等で表してゆく目で見える言葉です。

私が手話をはじめたきっかけは、私の育児方針で子供を幼稚園に通わせていないので、子供と一緒に活動したり学んだりすることを、もっとふやそうと考えていた時に広報で手話のサークルを知り、一緒にやりたいと思ったからです。

しらくと試みに覗いた教室で自分の名前を表す手話を教えて頂き、さっそく家で父親に教えている子供の姿を見て、頑張っている子を見て思いました。現代人は表情が乏しいとよく言われますが、手話ではその表情がとて大切になります。

同じ言葉でも言い方によって解釈が違ってくるように、手話も表情や動作の大きさ、スピード等で意味合いが違ってくるためです。相手に何か伝えたい時、意味が通じないと懸命になって伝えようと努力します。

健聴者の私達は、普段、溢れる程の言葉を話してはいますが、本当の自分の気持ちや、伝えたい事を話しているでしょうか。相手の言葉の意味を正しく理解しようと努力したり、相手の気持ちを汲み取ったりしているでしょうか。手話を始めて良かった事は、私の行動にいつも



I Love You
(世界共通です)

理解と協力を示してくれる夫に、言葉では中々言いだしていく感謝の気持ちや愛情を、さりげなく伝えることです。この間、小学生の姪が、三年生から学校で手話を習うんだと教えてくれました。大変良い事だと思えます。

何でも無い時には、気軽に言える「ありがとう」や「ごめんなさい」の言葉が、本当に言いながら、恥ずかしくて言えなかったという経験は、誰でもあることだと思います。子供達の間で、手話を使って、心の交流ができるのなら、今よりも少し、本当の気持ちで、わかり合えるかも知れません。手話は、目で見える言葉ですので、ビデオでの学習が、とてもわかりやす

く、自習するのにも良いと思います。図書館や役場等、身近なところで、ビデオの貸し出しがあれば、聴覚障害者の方とふれ合う機会の少ない人でも、もつと手話に親しめるのではないのでしょうか。まだ仮面ライダーウガに夢中の息子ですが、手話を通して、人とのふれ合いの大切さと、学ぶ事の楽しさを実感してほしいと願っています。

今は、週一回の聖書の研究と週二回のフォークダンス、月二回の手話をやっていますが、みんな子供と一緒に参加を気持ちよく、受け入れて下さったサークルの皆様から感謝しています。



スポーツ
大会

◆銃剣道親善新潟大会(7月23日、新潟市鳥屋野総合体育館) 個人戦 ②石川弘 ③古俣侃

◆第115回善友会囲碁大会(7月23日、黒崎町公民館)

- A級優勝・谷博之
- B級優勝・池田匡
- C級優勝・村山米次

※ 次回は、9月10日(日)午後1時から黒崎町公民館2階会議室で囲碁大会を開催いたします。受付は、午後0時30分から開始いたしますので、新規の方、並びに会員の方多数お誘い合わせの上、ご参加をお待ちしています。(佐原祐司 ☎ 371-2532)

